Philologie de la civilisation japonaise

Cours du 9 avril 2013

- Les poèmes de la rubrique « Bouddhisme » du *Shin-Kokin-shû* et conclusion -

- **1910**よみ人しらず

くまのへまうで侍しに、いはしろ王子に人々の名などかきつけさせて、しばし侍しに、拝殿のなげしにかきつけて侍し哥

いはしろの神はしるらんしるべせよ
たのむうきよの夢のゆくすゑ

- **1911** 太上天皇

くまのゝ本宮やけて、としのうちに遷宮侍しにまいりて

契あればうれしきかゝるおりにあひぬ
わするな神もゆくすゑの空

- **1915** 貫之

延喜御時屏風に、夏神楽の心をよみ侍ける

河やしろしのにおりはへほす衣
　　いかにほせばかなぬかひざらん

- **1916**

なをたのめしめぢがはらのさせも草
わがよの中にあらんかぎりは

- **1917**

なにかおもふなにをかなげく世中は
　　たゞあさがほの花のうへの露

このふたうたは、清水観音御哥となんいひつたへたる

- **1918**

智縁上人、伯耆の大山にまいりて、いでなんとしけるあか月、ゆめに見えけるうた

山ふかくとしふるわれもあるものを
いづちか月のいでゝゆくらん

- **1919** 行基菩薩

なにはのみつでらにて、あしの葉のそよぐをきゝて

あしそよぐしほせの浪のいつまでか
うきよの中にうかびわたらん

- **1921** 智証大師

入唐時哥

のりの舟さしてゆく身ぞもろもろの
神もほとけもわれをみそなへ

- **1922**

菩提寺の講堂のはしらに、むしのくひたりけるうた

しるべある時にだにゆけごくらくの
みちにまどへる世中の人

- Mohe zhiguan 摩訶止観　III. p.10 b

若但聞名口說。如蟲食木偶得成字。是蟲不知是字非字。既不通達寧是菩提。

- **1931** 前大僧正慈円

述懐哥の中に

ねがはくはしばしやみぢにやすらひて
かゝげやせまし法のともし火

- **1932**

とくみのりきくのしらつゆよるはをきて
　　つとめてきえんことをしぞおもふ

朝聞道、夕死可也。

- **1933**

極楽へまだわが心ゆきつかず
　　ひつじのあゆみしばしとゞまれ

- **1951** 寂然法師

人々すゝめて法文百首哥よみ侍けるに、二乗但空智如蛍火

みちのべのほたるばかりをしるべにて
ひとりぞいづる夕やみの空

- tr. p.351, T. p.54c02 :

若有女人聞是經典，如說修行，於此命終，即往安樂世界，阿彌陀佛、大菩薩眾，圍繞住處，生蓮華中，寶座之上。

- **1977** 瞻西上人

人の身まかりにけるのち、結縁経供養しけるに、
即往安楽世界のこゝろをよめる

むかし見し月のひかりをしるべにて
こよひや君がにしへゆくらん

瞻蔔(油燈)

- **1978** 西行法師

観心をよみ侍ける

やみはれて心のそらにすむ月は
　　にしの山べやちかくなるらん